



今年、少しですが、こんにゃくを植えてます 7月8日撮影

- ・ 定額減税対応経費 7832万円
- ・ 油木山村開発センター改修工事 5538万円
- ・ 物価高騰対策事業 3569万円
- ・ 新型コロナウイルス感染症関連対策事業 4370万円
- ・ 町道維持管理経費 3635万円
- ・ 農業生産団体補助金 295万円
- ・ さんわ182ステーション駐車場補修ほか 271万円

令和5年度第三セクター経営状況

㈱帝釈峽スコラ
売上は、6364万円で、
昨対比132%、当期純利益59万円の黒字
利用者数、8万9322人

㈲さんわ182ステーション
売上は、6億657万円で、
昨対比93・4%、当期純利益143万円の黒字
総来客数、46万7521人

㈱神石高原農業公社
売上は、6208万円で、
年対比103%、当期純利益53万円の黒字の経営状況の報告がありました。



2024年7月 15号

発行 柏床由夫後援会
神石高原町油木乙23番地2 Tel.(0847-82-2022)
<http://ww4.tiki.ne.jp/~kashiwatoko/>
Email kashiwatoko@mx4.tiki.ne.jp



【6月定例会】

一般会計 3億807万円を補正

定額減税対応経費

油木山村開発センター改修工事など

6月定例会は、6月11日から19日まで開かれ、一般会計、5特別会計を含む補正予算総額、4億7845万円を補正したほか、工事請負契約の締結、専決処分した事件の承認、条例改正など21議案と議員発議2議案が原案どおり可決。一般質問は8人の議員が行いました。

補正の主な内容

7月臨時議会

7月2日(火)に臨時議会が開催され、油木スポーツ広場を、公式戦が出来る人工芝のサッカーグラウンド整備の予算を補正しました。

整備内容

- ・ 人工芝敷設
 - ・ 照明
 - ・ ロッカールーム
 - ・ 防球ネット
 - ・ 駐車場
- 完成後、グラウンドゴルフも出来ます。
- ※P4に関連記事

サッカー場に整備 3億9000万円



油木スポーツ広場(旧油木中学校跡地)



柏床議員の一般質問

地域計画

※地域計画とは、農業経営基盤強化促進法を改正（令和5年4月施行）し、「人・農地プラン」を「地域計画」として法定化。

問 農地活用のアンケート結果は。

答 後継者なし 77%。

柏床Ⅱ昨年度実施した、地域計画の策定に向けた農地の活用に関するアンケートの調査は。

町長Ⅱアンケートは、農地所有面積の合計が10a以上のの人に対して送付している。町全体の送付者数は2,750世帯で、その内回答が

あったのが1,630世帯で、回答率は、59・2%であった。

10年後の農業後継者の有無については、77%が「いない」と回答しており、急速な耕作放棄地の増加が見込まれ、担い手や法人等への集積が可能か課題である。

今後の経営の意向については、「規模拡大」が1%で、「現状維持」が48%と回答しています。又、「規模縮小」は35%であった。

「現状維持」が約半数となっているのですが、後継者がいないとの回答の中、いつまで現状維持が続くのか大きな課題であり、現状維持が出来なくなった時には、一気に耕作放棄地が増えていく恐れがあることを示唆しているのではないかとと思われる。

農地中間管理機構への仲介、新規就農者や企業参入への農地の貸付け意向については、農地中間管理機構への仲介を受けても良い

と回答しているのは71%で、新規就農者や企業参入へ貸付けても良いとの回答は65%であった。

柏床Ⅱ回答世帯の77%後継者がいない状況を町長はどう受け止めるのか。

町長Ⅱ想定はしてきたし、数値に現れると身に迫る思いもあるが、現実的の農業で生活していける農業をどういうかたちで展開できるか考えていかないと、この現状は止まらなないと考えている。担い手に農地を維持してもらおうのも限界の状況。将来をみて、どういう農業に集約していくのか、出来るところと、出来ないところの選択もしていく必要がある。

柏床Ⅱ本町の農業の現状をみての農業戦略の考えは。

産業課長Ⅱ現在、町全体の具体は無いが、基本方針は必要と思うので、今後、議論を重ねて検討したい。

柏床Ⅱ現在、農業者が土地所有者と賃貸契約を締結しているが、契約満了後の更

新時や新規契約の変更はあるのか。

産業課長Ⅱ農地法第3条の直接貸し付けと、農地中間管理機構を介しての契約の2パターンとなる。



今年、作付けされない水田

柏床Ⅱ本年度作成した計画は、10年後の地域農業の設計図であろうが、この地域計画の活用の課題もあると思われるが、活用方針は。

町長Ⅱ限られた担い手で、効率的な農地の活用を図り、貸付け希望農地を町内外や地域内外の担い手とのマッチングの資料として活用する。

柏床Ⅱマッチングは、どこが行うのか。

産業課長Ⅱ目標地図を参考にマッチング作業を行う。農業委員会と産業課の農地係が行う。

柏床Ⅱ農地を集約していくには農地所有者の理解が必要と思うが、どこが農地所有者との調整にあたるのか。産業課長Ⅱ地域事情を把握されておられる、農業委員や農業推進委員の方に話を聞いてもらい、それを農業委員会に持ち帰ってもらい進めて行きたい。

柏床Ⅱこの地域計画を、農業の振興計画にどう反映していくのか。

また、農作物の作付計画や新規就農者対策などに取り込む計画は。

町長Ⅱ耕作者不在の農地について、新規就農者の研修ほ場や就農地を斡旋し、また遊休農地を見える化をすること、それを解消する資料として活用していく計画だ。さらに農業参入企業や町外、地域外の担い手で

もほ場条件によれば居住地が遠くても耕作に通って来られる場合があるので、経営面積の拡大に繋げていくことも期待できることから、農業振興に大いに活用していきたいと考えている。

柏床Ⅱ農地中間管理機構が保有する土地は、中間管理機構が農地を管理するのか。**産業課長**Ⅱ農地中間管理機構は1年間保有するが、1年間で借りてがない場合は所有者に返還する。

柏床Ⅱであれば、有休農地が荒廃化する懸念があるが。**産業課長**Ⅱ中山間直接支払い事業の協定農地であれば管理できると考えるが、これ以外の農地の場合は、これといった解決策が無いのが状況で検討課題だ。

柏床Ⅱ今後、町としての農業の経営計画が必要では。**産業課長**Ⅱ農業の今後の方向性について、農業委員会と行政とで検討して行く。**柏床Ⅱ**生計が成り立つ農家を作っていくのが課題だ。高齢農家のブドウ畑など今

ある資源を活用して引き継ぐ農家の育成についての考えは。

町長Ⅱ非常に難しい課題だ。トマトについて今後も期待できる情報を得たが、資材高騰の状況では新規就農は難しいので、規模縮小しているトマト農家に新規就農してもらおうなど、今ある資源を最大限活用するなどトマト農家とも話をした。

ブドウ畑の事業承継など考えていく必要性はあるが、収益も上がらないと生計できないので、半農半×(エックス)など、色々な組み合わせで今後考えて行きたい。

定住対策

柏床Ⅱ本年度から子育て支援が充実されたが、第3期総合戦略の計画年にあたり、計画作成はどの様に取り組まれるのか。うち、第3期総合戦略での移住・定住対策の基本的考えは。

町長Ⅱ「第3期総合戦略」

については、現在策定中の「第3次長期総合計画」に内包した形で計画作成している。

総合戦略の基本は、国の根拠法令であるデジタル田園都市国家構想総合戦略に基づき策定をしていく。

総合戦略は「人口減少対策」に特化された計画で、その計画策定の方針・ポイントとして

1. しごとをつくる
2. ひとの流れをつくる(関係人口)
3. 結婚・出産・子育てを望む方の希望を叶える
4. 魅力的で持続的な地域をつくる

という「人口減少適応策」の大きく2つの視点で整理することで、施策や取り組みを立案しやすい計画、市民の皆さんにも伝わりやすい計画にしていきたい。
第3期総合戦略での移住・定住対策の基本的考え方は、まずはこれまで行ってきた

施策効果の分析が重要である、と考えている。

目標を具体的数値で定量化し、それがどう移住・定住に対し機能したのか分析を行い、そして次期計画においてどのような数値目標が必要なのか、しっかりと検討していく。

柏床Ⅱ第2期総合戦略の評価は、どこが、いつまでに行うのか。

政策企画課長Ⅱ幹部を中心としたワーキング会議で事業効果検証を1次的に行い、その後、外部評価委員の12名で総合戦略策定委員会を開催し、行政が行った1次評価に加え外部目線での2次評価してもらい、最終評価をもらい公表する。



(第2期総合戦略)

柏床Ⅱ若者定住対策の充実が課題と考えるが、若者の定住対策について、これまでの取り組みの課題と、今後の取り組み方針は。

町長Ⅱ本町は、中山間地域に位置し、早くから過疎地域として、高齢化などの多くの課題を抱えてきた。このことから、人口減少の流れを最小限にとどめるため、「若者定住対策」や「U・Iターン者の受け入れ」を促進してきた。

ハード面では、「町営住宅整備」や「住宅団地整備」等に取り組んでおり、「工場誘致」等もこの対策に入ると考える。

ソフト面では、「空き家バンク」制度の取り組みや、国や県の事業を積極的に採用し、移住・定住に関する補助事業や、町単独での個別給付による事業、都市部でのフェアにも取り組んでいる。

この間の課題としては、住宅整備や団地整備により、人口の自然減に対する下降

カーブを緩くすることができ、地域が活性化したことや保育所・小学校の維持につながったことは、成果と考えている。

しかし、これらの整備から20年近くなり、次の世代が、定住につながらないという課題があると思う。

今後の取り組みでは、災害復旧等で中断していた、今年度からの井関地区における「第2定住団地整備に向けた事業」にも取り組んでいる。

さらに、今年度から「子育て特化型」の予算により、「出会い」から「結婚」、「住宅取得」、「子育て」、「進学」等の様々なライフステージでの支援に強化した取り組みを「移住・定住」と併せて、模索し、進めることとしている。

さらに、協働支援センターでの子育て応援に向けた取り組みも始まっており、行政のみならず、地域での取り組みとして、協働で取り組んでいく。

しかし、現状の人口減少が全国的なものであることは確かで、人口が減少し、過疎化が進展することで、とても利便性の高い町とは言えませんが、町民の皆様と「対話」し、ウェルビーイングを追求することで、安心して生活していただき、住んで良かったと「幸せ」を実感できる町をめざしていく。

さらに、そういった「幸せ」が「実感」できることをSNSやホームページなどの「情報媒体」を通じて発信し、町内外の多くの方々に、本町の魅力を知っていただき、興味を持っていただくことで、さらに、交流人口や関係人口が増え、移住・定住者の増加につながることを期待して取り組みを進める。

柏床Ⅱ島根県邑南町は、地区別定住戦略事業「ちくせん」を2015年から取り組まれ移住定住実績も出されている。
本町は、町全体の取り組み

で行っているが参考にすべき点はあるのではないかと。

町長Ⅱ手法の枠組みを作ることはできる。現在でも協働支援センターの枠組みで取り組むことは可能である。地域の方が、魅力をどう見出し、どう発信していくのか町もサポートしていきたい。邑南町の取り組みも、少し勉強させてもらいたい。

他県の地区別定住戦略事業の取り組み

島根県邑南町



宮崎県美郷町



軽トラ「朝」市



今年初の「朝」市の様子

6月21日(金)朝9時から11時まで、ゆき軽トラ「朝」市が開催され、開店と同時に地域の方が買い物に來られました。野菜や加工品など今回は7戸の農家が出店しました。
今年の開催予定は、旧油木百彩館横駐車場
7月19日(金)9時から
8月11日(日)9時から
9月20日(金)9時から
10月18日(金)9時から
11月15日(金)9時から
(問合せ先・油木協働支援センター 82-0701)

【サッカー場整備】

7月2日の臨時議会の冒頭、町長挨拶で、今回の整備の目的として、Jリーグ参入を目指す、福山シティフットボールクラブ(FCC)のユースチームを誘致する計画。今年度限りの合併特例事業債を活用して整備する。

現在、少年サッカーや地域のグラウンドゴルフ場として使用している。町が整備するので、整備後も原則、地元の利用が優先としている。

【6月議会を終えて】

昨年の農地活用のアンケート結果、深刻な状況ではなからうか。後継者なし77%には衝撃を受けた。我が家も後継者は現在いない。
返信されたアンケートの回答率は、59.2%、未回答の40.8%は荒廃地化が予測される。今後の農政の転換期に直面しているのではなからうか。